

病む現代人を救うミラクル・パワー

橘田 力 著

バナ・ウォーターで始まった
〈富士山伏流水〉

糖尿病ゼロ革命



インスリンを
使わずに 血糖値が下がる！

バナジウムの類なき作用機序を

世界で初めて実証 (奥田拓道・愛媛大学
医学部教授による)



東洋健康新書

橘田 力 著

バナ・ウオーターで始まった

糖尿病ゼロ革命

——病む現代人を救うミラクル・パワー

東洋医学舎

豊かさの果てに糖尿病

●いま、もっとも怖い病気は？

「あなたが今、いちばん心配している病気は？」

と聞かれて、ガンを第一にあげる人が多いはず。なにしろガンは日本人の死亡原因のトップになった1981年以来、ずっとその座を譲らない業病です。毎年死亡する人の約三人に一人はガンだということですから（ちなみに1996年の全死亡者数89万6182人のうち、ガンによる死亡者数は27万1094人で30・2%を占めています∥厚生省発表）、ほとんどの人が身近な人をガンで失った経験は持っていることでしょう。

ガンがとりわけ恐れられる理由は三つあります。

(1)ガンは相手を選ばない。

(2)ガンになる理由も、したがって予防法もほとんどわかっていない。

(3) 治す手段が限定され、しかも苦痛を伴い、治癒成績も芳しくない。

まさかと思う人がガンに倒れる悲痛さには忍びがたいものがありますし、薬石効なしという結果にはさらに耐えがたい思いをさせられますが、誰一人として「明日はわが身」の不安から免れることはできないのです。こんな病魔の理不尽さが、ガンをこの上なくおぞましいものにしていくでしょう。

ところが、ガンは治しやすくなってきた、と医療関係者の多くが断言しているのも事実なのです。その背景には、国立がんセンター中央病院の発表した治癒率（治療後、5年間再発しないケース）の改善——すなわち、1964年から73年までの10年間の治癒率は41%だったが、次の10年間は47%、その次の5年間では55%、さらに最近の5年間では59%になっている、といった数字があります。

また、日本人のガンはかつては胃ガンと子宮ガンが第一だったが、最近はそのらが減って肺ガンや大腸ガンが増えてきており、このことは生活環境などの因子を改善することによって、ガンの罹患が抑えられる可能性を示すものだ、という見方も行われています。

そのうえ、人口の高齢化が、ガンの罹患率や死亡率を高める最大の要因だと指摘する関係者も少なくありません。ガンによる死者数は確かに年々増えているが、年齢構成で調整した死

亡率（年齢調整死亡率）で見れば、十数年間の統計では1%台の微増を見たに過ぎない、というのです。

ガンはこのように、小さな数字の違いであっても大騒ぎをしなくてはならないほど、誰にとっても重大な関心事ですが、病気になる可能性からいっても、またその疾患のただならぬ性質から見ても、ガンに勝るとも劣らない問題を抱えて私たちの前に登場した疾病があります。

それは、新しい「国民病」と指摘されるようになった糖尿病です。

●日本人の10人に1人は糖尿病

ガンのような大問題を抱えた疾病と並べて、なぜここに糖尿病を取り上げようとするのか、その理由は簡単明瞭です。すなわち、①患者数が多い、②治しにくい、③深刻な余病を併発する、からに他なりません。

そして何よりも、その患者とその予備軍を合計すると、その数が日本人の場合には乳幼児まで加えた国民の10%を超えてしまったと推定されるところに、座視できない危険性が潜んでいるのです。大問題視されているガンでも、正確な数字はわかりませんが、毎年の罹患者数（予備軍は含まない）は約50万人ほどと見なされています。

糖尿病、予備軍含め1370万人

厚生省が発表した調査によると、糖尿病の患者は690万人、予備軍を含めると1370万人に達する。予備軍とは、血糖値が正常範囲を逸脱しているが、まだ症状が現れていない状態を指す。この調査は、糖尿病の有病率が高齢化とともに急激に上昇していることを示している。特に、65歳以上の高齢者では、患者数が急増している。また、予備軍の増加も著しく、今後患者数が増える可能性が高いと推定されている。

厚生省、実態調査で推計

患者690万人 「治療中」半数割る



糖尿病の予備軍は、血糖値が正常範囲を逸脱しているが、まだ症状が現れていない状態を指す。この調査は、糖尿病の有病率が高齢化とともに急激に上昇していることを示している。特に、65歳以上の高齢者では、患者数が急増している。また、予備軍の増加も著しく、今後患者数が増える可能性が高いと推定されている。

肥満度の高い人の3人に1人

糖尿病の可能性

厚生省調査

糖尿病の予備軍は、血糖値が正常範囲を逸脱しているが、まだ症状が現れていない状態を指す。この調査は、糖尿病の有病率が高齢化とともに急激に上昇していることを示している。特に、65歳以上の高齢者では、患者数が急増している。また、予備軍の増加も著しく、今後患者数が増える可能性が高いと推定されている。

糖尿病の予備軍は、血糖値が正常範囲を逸脱しているが、まだ症状が現れていない状態を指す。この調査は、糖尿病の有病率が高齢化とともに急激に上昇していることを示している。特に、65歳以上の高齢者では、患者数が急増している。また、予備軍の増加も著しく、今後患者数が増える可能性が高いと推定されている。

「糖尿病は国民病」を報ずる産経(左/99.4.22)、朝日(98.3.19)新聞

厚生省が「わが国の糖尿病患者(予備軍を含まない)158万人」という発表をしたのは平成5(1993)年でしたが、平成8年には「その数218万人。わずか3年で40%も激増」という調査報告をして識者を驚かせました。しかし、この調査では通院患者数しか把握できなかったために、予防医学の見地から翌1997年に行われた国民栄養調査で血液検査に応じた6059人を対象に、より精密な検討が加えられました。

その結果、「糖尿病が強く疑われる」(血液の中のヘモグロビン値が高い)人が推計690万人、「糖尿病の可能性を否定できない」人(すなわち糖尿病予備軍)が推計680万人、合計なんと1370万人にも上ることが明らか